

心不全とは？

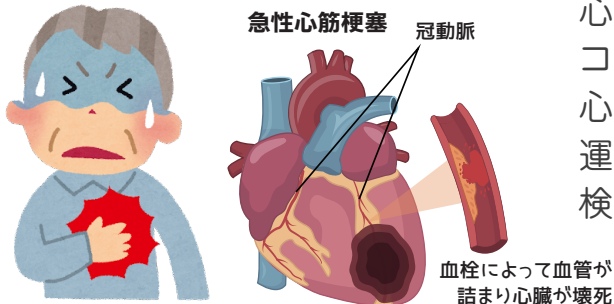


心不全とは心臓のポンプ機能が弱り、全身の臓器や筋肉に必要な量の血液を送り出せなくなった状態をいいます。

心不全の原因は、狭心症・心筋梗塞・弁膜症・不整脈・心筋症・高血圧など様々です。

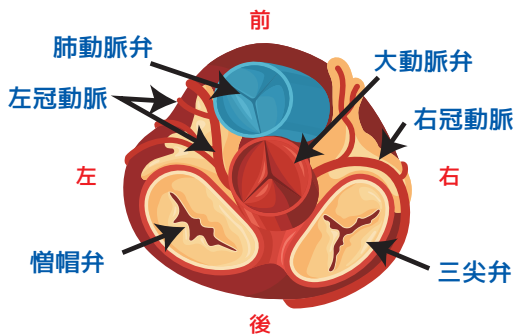
心不全になると、少し動くだけで息切れや動悸・胸の苦しさがでます。いつもより疲れやすくなったり、足がむくんだり、ふらつとすることが増えた場合も要注意です。

① 狭心症・心筋梗塞



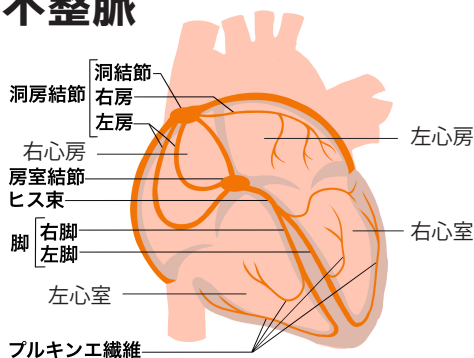
心臓に栄養を起こる血管が血栓やコレステロールで狭くなったり、詰まったりして、心臓の筋肉の動きが落ちてしまいます。運動負荷心電図や心エコー検査・心臓カテーテル検査が有用です。

② 弁膜症



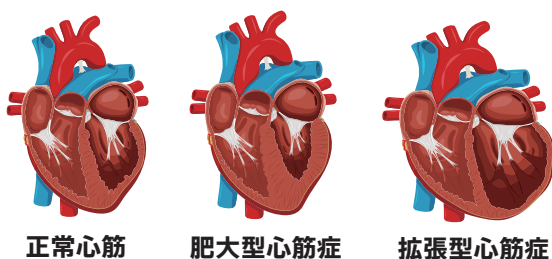
心臓には4つの弁があります。弁は心臓の中で扉の役割をしています。扉の閉まりが悪くなったり、逆に開きにくくなると、心臓の中で血流が逆流したり、よどんだりします。治療は手術が必要になることが多いです。

③ 不整脈



心臓の筋肉には、刺激伝導系という独自の発電システムが備わっています。この電線が途切れたり、電線以外の部分で発火すると、不整脈が起こります。不整脈にはいくつかの種類があり、ホルター心電図(24時間心電図)で治療が必要かどうかを判定します。

④ 心筋症



遺伝や高血圧などの要因により、心臓の筋肉自体が分厚く肥大したり、ペラペラに薄くなり、心臓の収縮が落ちてしまう病気です。お薬治療が効果ない場合は、人工心臓や心臓移植が必要になることもあります。